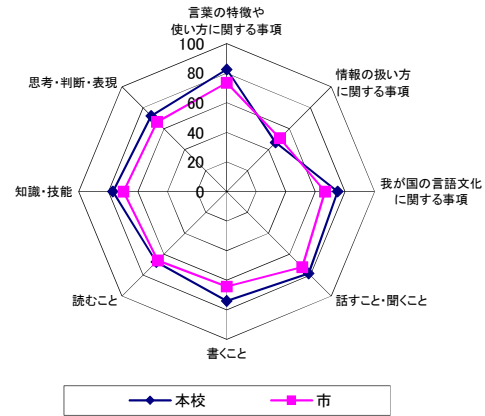


宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.6	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	46.9	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	75.0	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	78.5	72.3	73.7
	書くこと	74.0	64.3	66.6
	読むこと	67.4	65.8	64.9
観点別	知識・技能	76.9	69.8	70.8
	思考・判断・表現	72.2	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

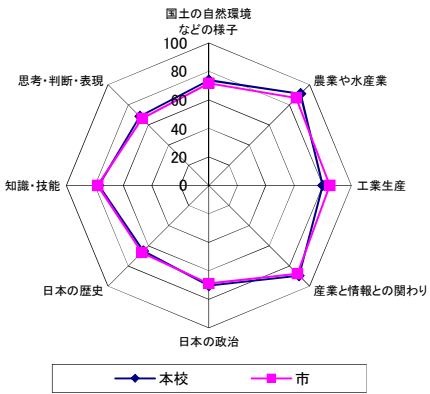
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	言葉の特徴や使い方に関する事項の領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○「漢字を読む」の「しお」の問題では、全ての児童が正解している。家庭学習等で復習に取り組む習慣が身に付いてきた成果である。 ○「言葉の学習」の問題は、どの問いも市の平均を上回っており、既習漢字を使って文章を書くよう指導したり、接続語を意識させて文章を読み取らせたりと、日々の学習の積み重ねにより内容の定着が図られている。	○今後も、漢字を正確に書けるように、副教材を活用して、宿題や朝の学習の時間に漢字練習への取組を徹底する。
情報の扱い方 に関する事項	情報の扱い方に関する事項の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。資料の要点を読み取り、分かりやすく整理することに課題が見られる。	・文中から必要な情報を見つけるために、文章中の言葉と図表などの言葉を線で結ぶなど、関係を視覚的に捉えて読むことができるようにする。 ・2つの資料から、共通する内容や異なる内容を読み取らせたり、必要な情報を整理して読み取らせたりする活動を取り入れるようにする。
我が国の言語文化 に関する事項	我が国の言語文化に関する事項の領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○提示された語句が和語か、漢語か、外来語かを答える問題では、平均正答率が市の平均と比べて高い。語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語に区別することができている。語句がどのようにして伝わってきたのかに着目し、和語、漢語、外来語について関心を高める活動を取り入れた成果である。	・今後も、語句の由来について関心がもてるように、他教科を含めた様々な学習の中で、和語、漢語、外来語について取り上げるようにする。
話すこと・聞くこと	話すこと・聞くことの領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、平均正答率が市の平均と比べて高い。教科に限らず、学校行事や委員会活動など様々な活動を通して、目的意識をもって話を聞く姿勢が培われた成果である。	・今後も、いろいろな場面において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができるよう指導していく。
書くこと	書くことの領域では、平均正答率は市の平均と比べて高い。 ○「自分の立場とその理由を書く」問題では、全ての児童が正解し、自分の考えを理由や根拠を用いて明確に書くことができる。また「指定された長さで文章を書いている」の問題も、9割の児童が正解している。日記指導やスピーチなど、自分の考えを文章で表現する機会を多く取り入れてきた成果であると考えられる。	・今後も、自分の考えを文章で表現する機会を多く取り入れるとともに、構成や段落分けに目を向けさせ、分かりやすい文章を書くことができるよう指導していく。
読むこと	読むことの領域では、平均正答率は市の平均と比べて高い。 ○「登場人物の心情について、描写を基に捉えている」問題では、平均正答率は市の平均と比べて高い。指導を通して、物語の構成や人物の心情を捉える視点が養われていた成果である。	・今後も、朝の読書の時間と図書室利用を推奨して、読書の機会を多く確保し、人物の心情を読み取ったり、場面を想像したりする力が育つように指導していく。 ・文章を読む活動を重ねる中で、文章中の重要な情報やキーワードに印をつけさせたり、接続詞に注目させたりし、情報の種類や関係性を捉えることができるように、指導を工夫する。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.8	71.6	69.6
	農業や水産業	91.0	86.7	83.7
	工業生産	79.9	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	89.6	87.7	77.4
	日本の政治	70.3	68.9	71.7
	日本の歴史	65.1	66.7	66.3
観点別	知識・技能	77.3	78.0	76.7
	思考・判断・表現	68.5	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

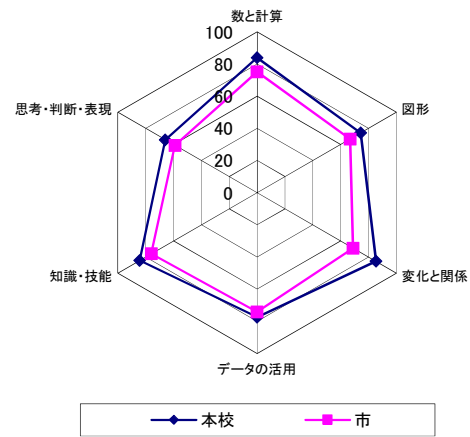
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	国土の自然環境などの様子の領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○オーストラリアの位置と国旗を理解しているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて高い。日本の近隣にある国の位置や国旗への理解が深まっている。 ●海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について、地図をもとに考え、表現しているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて低い。島国の特徴について理解することに課題が見られる。	・各教科において、日本と関わりのある国や近隣の国について、国旗を提示して視覚的に覚えたり、地図帳を用いて位置関係を確認したりする学習方法を引き続き行っていく。 ・国土の学習をする際は、地図帳を用いて島国の特徴を考えたり、経済水域の仕組みと関連付けて理解できるようにしたりするなど工夫して指導をしていく。また、他教科でも他国との比較をする際に、日本の自然環境の特徴に触れる機会を設ける。
農業や水産業	農業や水産業の領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○米の生産の工程について理解しているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて高い。2・4・5年生で稲作体験を行い、米作りが身近なものであることが学習に生かされている。 ●米の生産が盛んな地域について理解し、資料を選択する問題では、平均正答率が市の平均と比べてやや低い。他の農産物の生産が盛んな地域と区別することに課題が見られる。	・今後も稲作体験を継続するとともに、各教科の学習や食育との関わりなど、多方面から米作りについて理解を深める機会を設けていくようにしていく。 ・各都道府県ごとに生産量の多い農産物について調べる活動や、農作物が育つ環境について日本の気候や土地利用の特徴を関係付けて理解できるよう指導を行う。また、国内生産1位の農産物を各都道府県ごとに確認するなど、児童が興味・関心をもてるように資料を活用する。
工業生産	工業生産の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ●日本の工業の特色について、資料をもとに表現する問題では、平均正答率が市の平均と比べて低い。日本の輸入品と工場の立地に関わる理解に課題が見られる。	・石油など海外から船舶で輸入する品目と、精密機器など航空機で輸入する品目について輸送のしやすさの違いなど視点をもって理解することができるよう指導する。 ・原料を輸入し、加工品を輸出する日本の生産の仕組みを押さえ、港や空港、工場の立地やそれに関わる運輸の広がりについて連想する学習や地図帳を用いて立地を確認する方法を用いて定着を図る。
産業と情報との関わり	産業と情報との関わりの領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題では、平均正答率が市の平均と比べて高い。一人一台端末の使い方について、情報モラルの視点から日常的に指導を行ってきた成果である。 ●メディアの特徴について考える問題では、平均正答率が市の平均と比べてやや低く、日常生活と結びつけて考えることに課題が見られる。	・今後もインターネットを利用するときを例に、情報化した社会においては自他の個人情報の保護や適切な扱いが必要であることについて、日常的に指導していく。 ・他教科との関連を図りながら、放送・新聞などの産業や情報の活用や発信の仕方の違いについて調べたりまとめたりすることを通してメディアの特徴を指導していく。
日本の政治	日本の政治の領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○国民と国会と内閣の関係についての理解をもとに、図を読み取る問題では、平均回答率が市の平均と比べて高い。図に分かりやすくまとめて指導してきた成果である。 ●国民の義務について考える問題では、平均回答率が市の平均よりやや低く、権利か義務かを判断することに課題が見られる。	・今後も、図にまとめたり資料を丁寧に読み取る活動を設けるようにする。 ・国民の義務について、言葉だけでなく具体的な内容をおさえるようにするとともに、国民の権利とのちがいを意識して理解できるよう指導していく。
日本の歴史	日本の歴史の領域では、平均正答率が市の平均と比べてやや低い。 ○壇ノ浦の戦いが起きた場所を地図から選ぶ問題では、平均回答率が市の平均と比べて高い。歴史的事象について自分なりに調べ、人物や場所、因果関係などをまとめる活動を取り入れた成果である。 ●書院造の部屋の特徴について答える問題では、平均回答率が市の平均より低い。室町文化の建造物やその特徴を捉えることに課題が見られる。	・今後も、教科書や資料集、地図帳などを併用して、歴史的事象について調べ、まとめる活動を取り入れ、理解を深めるよう指導していく。 ・書院造の特徴の理解など、文化遺産について理解する学習にあたっては、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績や優れた文化遺産の働きなどを資料をもとに調べまとめることを通して指導していく。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	84.0	75.1	75.8
	図形	74.4	66.8	68.3
	変化と関係	85.4	68.8	65.0
	データの活用	77.4	74.1	63.6
観点別	知識・技能	84.3	76.1	75.8
	思考・判断・表現	65.9	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

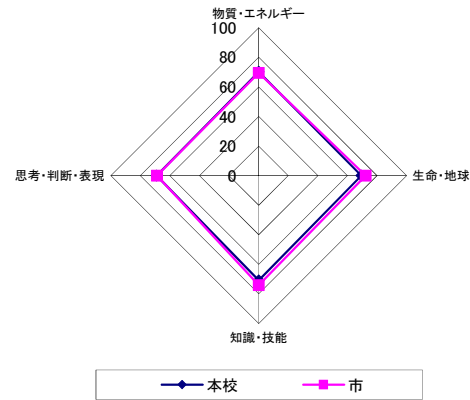
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	数と計算にの領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○真分数＋真分数＝仮分数(帯分数)で、片方の分母にそろえる通分をする計算しながら求める問題では、平均正答率は市の平均と比べて高い。分数の計算の素地となる通分や約分の仕方について練習を重ねた成果である。	・今後も、引き続き、小数や分数の計算を定着させるため、朝の学習の時間や宿題等でAドリルや計算ドリルを活用し、繰り返し問題に取り組む機会を設ける。
図形	図形に関する領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積の求積方法について立式する問題では、平均正答率は市の平均と比べて高い。高さが外側にある場合の長さについて、垂直の性質を基に正しく理解しながら、様々な条件の面積の求積方法について理解を深めるよう問題練習に取り組ませた成果である。	・今後も、既習事項である三角形や四角形の角のきまりを振り返りながら、他の多角形についても既習のきまりを用いて演繹的に説明したり、発展的に調べ一般化したりして考えられる等の機会を設ける。
変化と関係	変化と関係の領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○基準量と比較量から、割合を求める問題では、平均正答率は市の平均と比べて高い。日常生活の買い物の場面と関連付けながら、割合を用いる問題場面についての立式について考える活動を取り上げたことで、比較量と基準量を正確に捉えられるようになった成果である。	・今後も、算数だけではなく、他教科や授業以外の学校生活において、割合を求め生かす機会を設ける。 ・時速、分速、秒速の単位の関係について、身近な問題を取り上げるなどして理解を深め、速さの単位変換の問題等に繰り返し取り組む機会を設ける。
データの活用	データの活用に関する領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走る時におそよ何歩かかるかを求める問題では、平均正答率は市の平均と比べて高い。生活場面で平均の考え方を生かして問題解決に取り組む活動を行った成果である。	・今後も、引き続き具体的な場面をもとに平均の求め方を考えたり、繰り返し練習問題を行ったりして、知識の定着を図る。 ・度数分布表の特徴や意味について、再度指導し理解を十分に深めた上で、データを表に表したり読み取ったりする活動を繰り返し行う。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.1	69.5	65.2
	生命・地球	69.4	72.3	70.1
観点別	知識・技能	70.8	74.0	70.7
	思考・判断・表現	69.0	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	物質・エネルギーに関する領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○ふりこの動きに関する設問では、平均正答率がどの問題においても市と比べて高い。条件制御を意識させた実験を行い、結果から適切に考察する授業展開を着実に進めた成果である。 ●物のとけ方の単元の問題において、実験における条件制御の誤りを指摘し説明する問題や、水に溶けたミョウバンを取り出す方法についての問題で、平均正答率が、市の平均と比べて10ポイント以上低い。溶けて見えなくなったものがどのような形で存在しているかイメージをもつことに課題がある。	○今後も、条件を制御して調べる能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、規則性についての見方や考え方を育てる授業を展開できるようにする。 ・仮説、実験、結果、考察の流れで繰り返し授業を進めることで科学的概念の定着を図るとともに、実験の結果から理解したことを振り返り、学習内容や知識の定着を図る。 ・定着を図るために定期的に練習問題に日頃から取り組ませるようにする。
生命・地球	生命・地球に関する領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ○消化された養分は主に小腸から吸収されことを問う問題では、平均正答率が市の平均と比べて17.5ポイント高い。映像や模型を活用してまとめる活動を取り入れた成果である。 ●月と太陽に関する設問では、平均正答率が市の平均と比べて低い。観測する位置を地球上や宇宙空間に仮想しながら、月と太陽の位置関係を理解することに課題がある。 ●流れる水のはたらきの単元の問題において、浸食についての問題で、20.7ポイントも市の平均と比べて低い。実験での現象と自然での現象を結び付けて思考することに課題がある。	・今後も、日常生活と関連させながら、人間や動物の体のつくり、身近な自然への興味・関心を高めていくとともに、映像や模型などを活用しながら推論する活動を取り入れて、消化・吸収・排出・血液の循環など相互の働きを関連付けて理解できるように指導していく。 ・太陽と月の位置と月の見え方の関係の理解をするために、月に見立てたボールに光を当てるなどのモデル実験や映像資料などから、月の見え方は太陽と月の位置関係に理由があることを理解できるようにする。 ・理科の観察・実験を行う際には、前学年までの学習内容を確認し、系統的な学習ができるようにする。その上で、比較したり、関連付けたりといった科学的な問題解決の仕方を身に付けられるようにする。